資料２

諮問事項に関するアンケートの実施結果について

Ⅰ　アンケートの概要

１ はじめに

本消防団運営委員会諮問事項「切迫する首都直下地震に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力の継続的な強化方策について」の趣旨において、「消防署隊との連携した訓練や活動はもちろん、消防団が主体的に実戦的な訓練を推進し、災害時に確実かつ効果的な活動を展開していくことが必要不可欠であり、その実現に向けて、消防団員の負担軽減にも配慮した取組が求められる。」とある。

このことから、消防団活動や訓練における現状の負担等を把握し、本諮問事項の検討における基礎資料とするため、大田区内の各消防団を対象にアンケートを実施した。

２ 調査対象

令和８年４月１日現在の大田区内の全消防団員　９２８名

大森消防団　・・・・・・１８６名
田園調布消防団　・・・・２３９名
蒲田消防団　・・・・・・２３７名
矢口消防団　・・・・・・２６６名

３ 調査方法

大田区内の各消防団を対象にアンケートを実施し集計を行った。

４ 調査件数

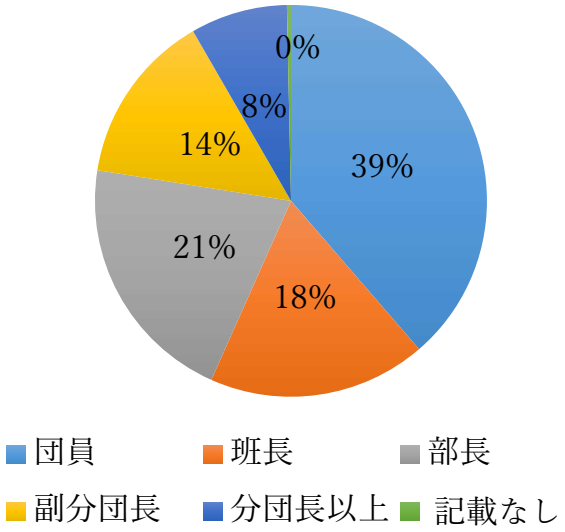
アンケート発送数　・・・９２８件
回収数　・・・・・・・・６００件（回収率：６４．７％）
有効回答数　・・・・・・６００件（有効回答率：６４．７％）

Ⅱ　アンケート結果

フェイスシート（回答者属性）

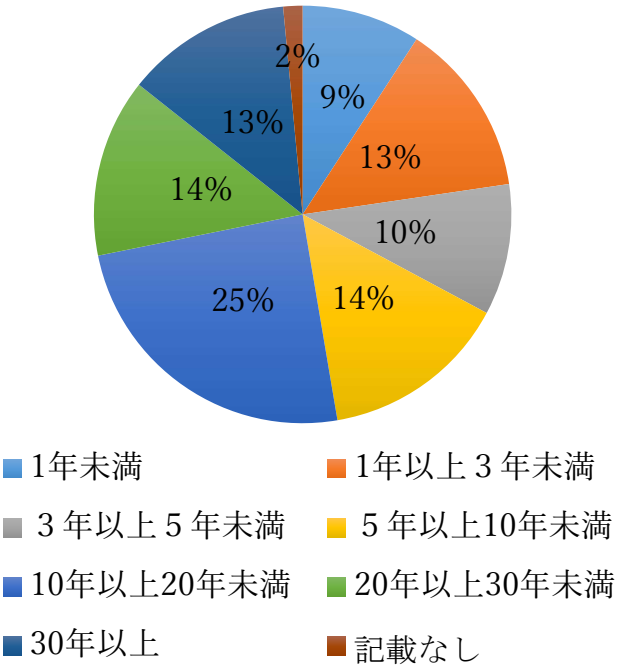
Q1　階級

階級	人数（人）	割合（%）
分団長以上	48	8
副分団長	85	14
部長	125	21
班長	108	18
団員	232	39
記載なし	2	0
合計	600	100



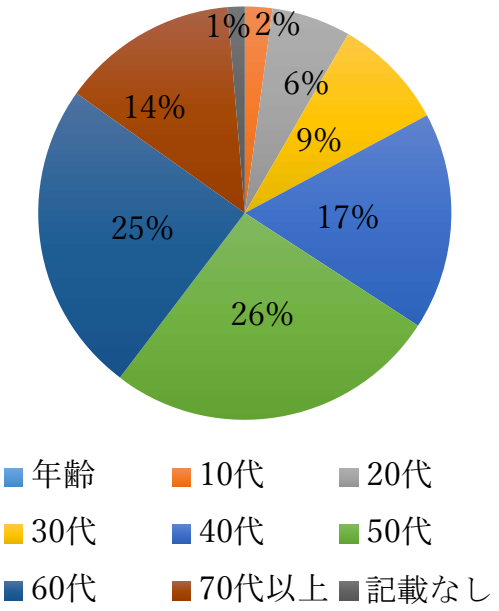
Q2　団歴

団歴	人数（人）	割合（%）
1 年未満	55	9
1 年以上 3 年未満	81	13
3 年以上 5 年未満	61	10
5 年以上 10 年未満	87	14
10 年以上 20 年未満	147	25
20 年以上 30 年未満	83	14
30 年以上	77	13
記載なし	9	2
合計	600	100



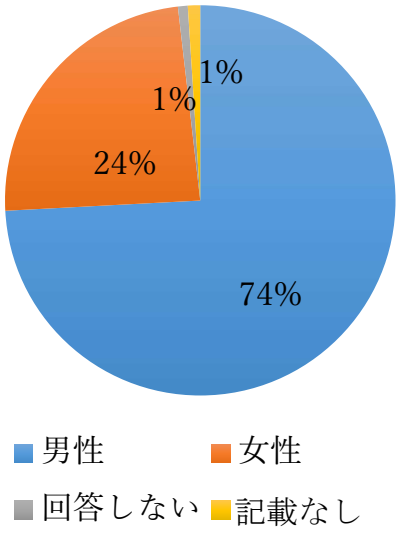
Q3　年齢

年齢	人数（人）	割合（%）
10 代	13	2
20 代	37	6
30 代	53	9
40 代	102	17
50 代	157	26
60 代	147	25
70 代以上	83	14
記載なし	8	1
合計	600	100



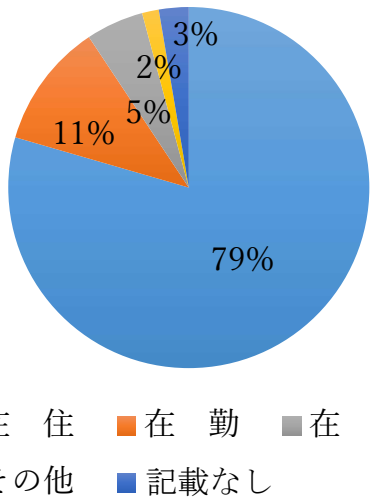
Q4　性別

性別	人数（人）	割合（%）
男性	445	74
女性	144	24
回答しない	5	1
記載なし	6	1
合計	600	100



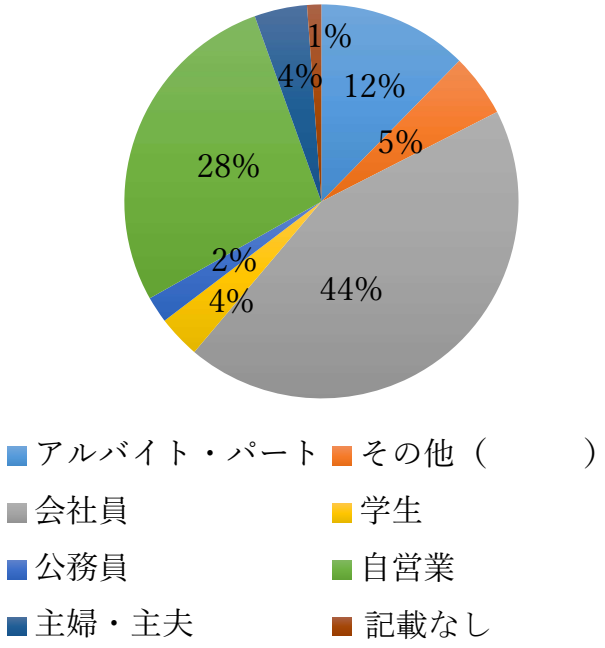
Q5　入団形態

入団形態	人数（人）	割合（%）
在　住	477	79
在　勤	67	11
在　学	31	5
その他	9	2
記載なし	16	3
合計	600	100



Q6　職業

職業	人数（人）	割合（%）
アルバイト・パート	74	12
その他（　　）	31	5
会社員	262	44
学生	21	4
公務員	13	2
自営業	166	28
主婦・主夫	26	4
記載なし	7	1
合計	600	100

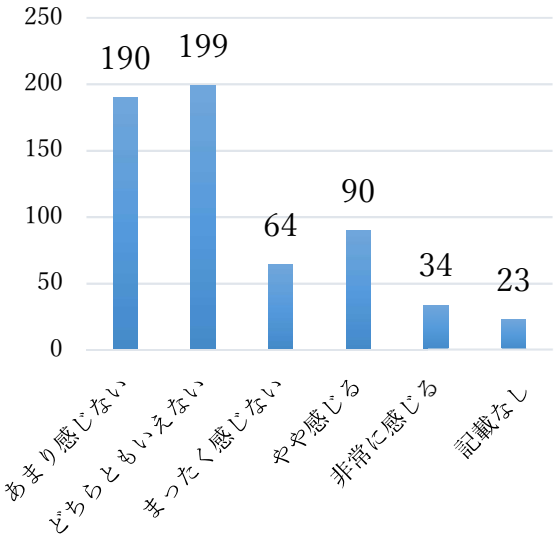


1　現消防団活動の負担の軽減を考慮し、首都直下地震を想定した実戦的かつ継続的な訓練の実施について

Q1－1　下記の消防団活動でどの程度、負担を感じるか選択してください。

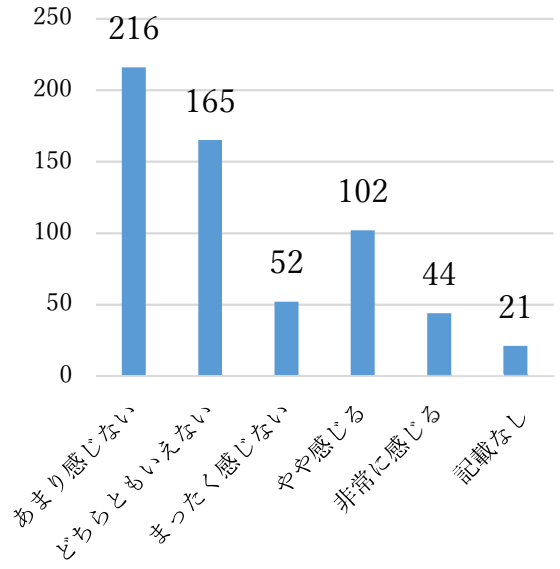
1　各種災害活動

	人数（人）	割合（%）
あまり感じない	190	32
どちらともいえない	199	33
まったく感じない	64	10
やや感じる	90	15
非常に感じる	34	6
記載なし	23	4
合計	600	100



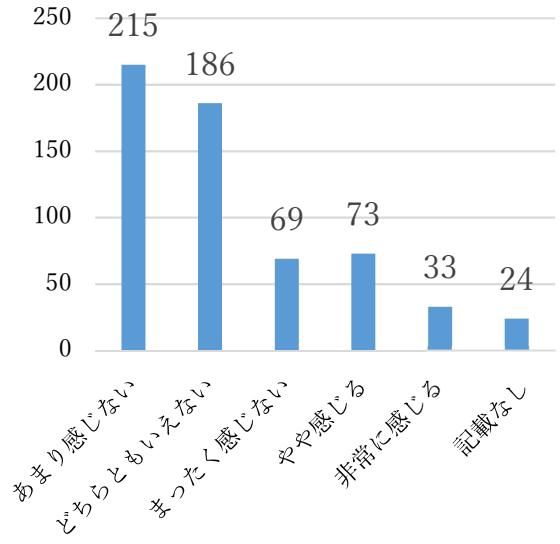
２　警戒活動（祭事等）

	人数（人）	割合（%）
あまり感じない	216	36
どちらともいえない	165	27
まったく感じない	52	9
やや感じる	102	17
非常に感じる	44	7
記載なし	21	4
合計	600	100



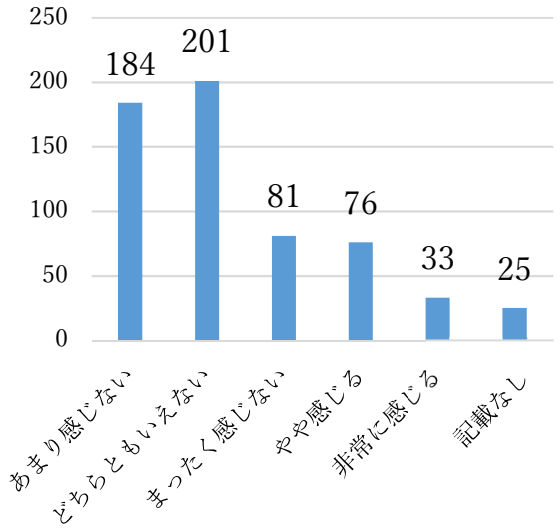
３　防火防災訓練指導

	人数（人）	割合（%）
あまり感じない	215	36
どちらともいえない	186	31
まったく感じない	69	11
やや感じる	73	12
非常に感じる	33	6
記載なし	24	4
合計	600	100



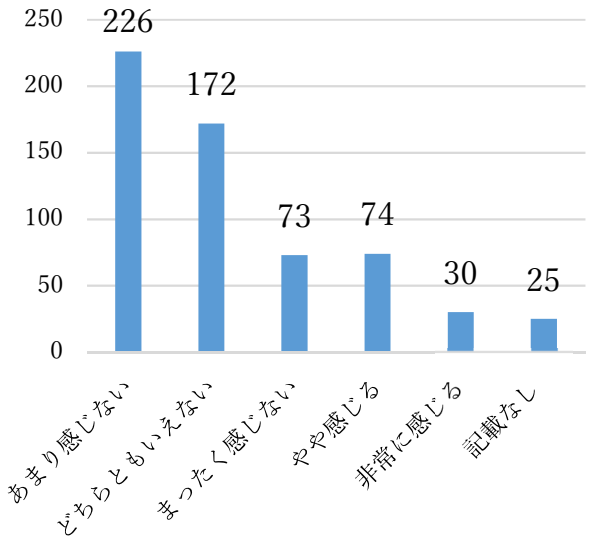
４　救命講習等指導

	人数（人）	割合（%）
あまり感じない	184	31
どちらともいえない	201	33
まったく感じない	81	13
やや感じる	76	13
非常に感じる	33	6
記載なし	25	4
合計	600	100



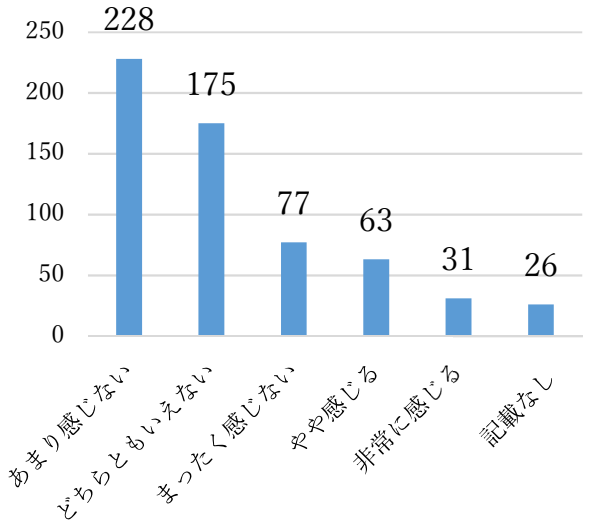
５　災害対応訓練

	人数（人）	割合（%）
あまり感じない	226	38
どちらともいえない	172	29
まったく感じない	73	12
やや感じる	74	12
非常に感じる	30	5
記載なし	25	4
合計	600	100



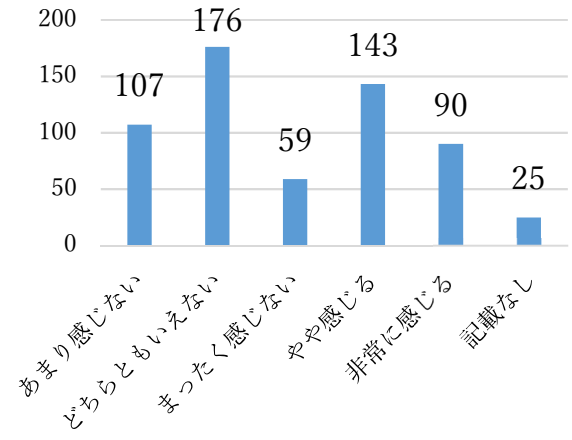
６　規律訓練

	人数（人）	割合（%）
あまり感じない	228	38
どちらともいえない	175	29
まったく感じない	77	13
やや感じる	63	11
非常に感じる	31	5
記載なし	26	4
合計	600	100



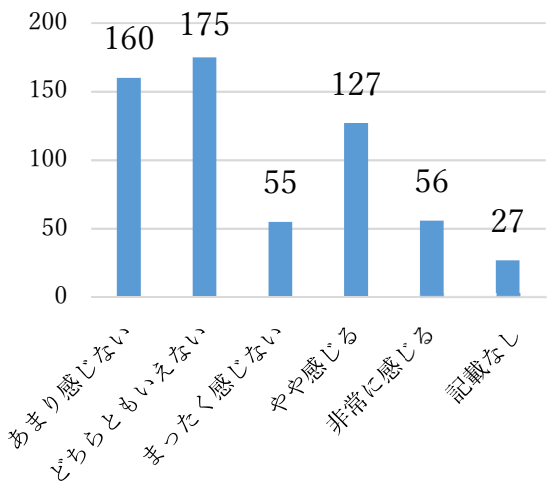
７　操法大会

	人数（人）	割合（%）
あまり感じない	107	18
どちらともいえない	176	29
まったく感じない	59	10
やや感じる	143	24
非常に感じる	90	15
記載なし	25	4
合計	600	100



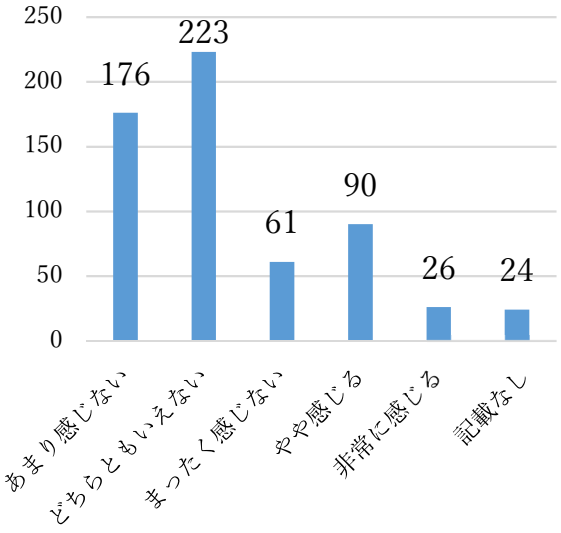
8　消防団点検・始式

	人数（人）	割合（%）
あまり感じない	160	27
どちらともいえない	175	29
まったく感じない	55	9
やや感じる	127	21
非常に感じる	56	9
記載なし	27	5
合計	600	100



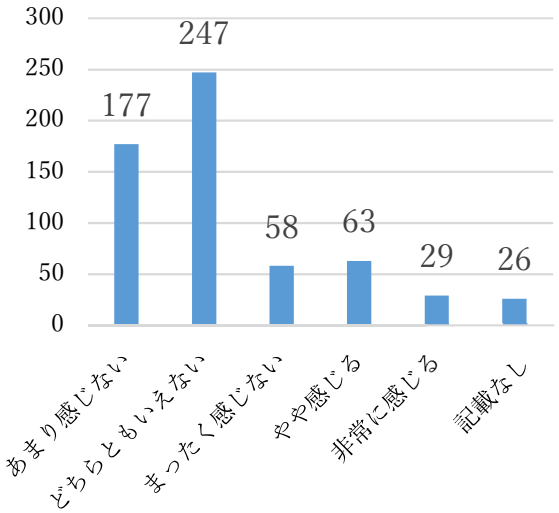
9　広報活動

	人数（人）	割合（%）
あまり感じない	176	29
どちらともいえない	223	37
まったく感じない	61	10
やや感じる	90	15
非常に感じる	26	5
記載なし	24	4
合計	600	100



10　各種、事務局への報告、連絡

	人数（人）	割合（%）
あまり感じない	177	29
どちらともいえない	247	41
まったく感じない	58	10
やや感じる	63	11
非常に感じる	29	5
記載なし	26	4
合計	600	100



11　その他（　　）

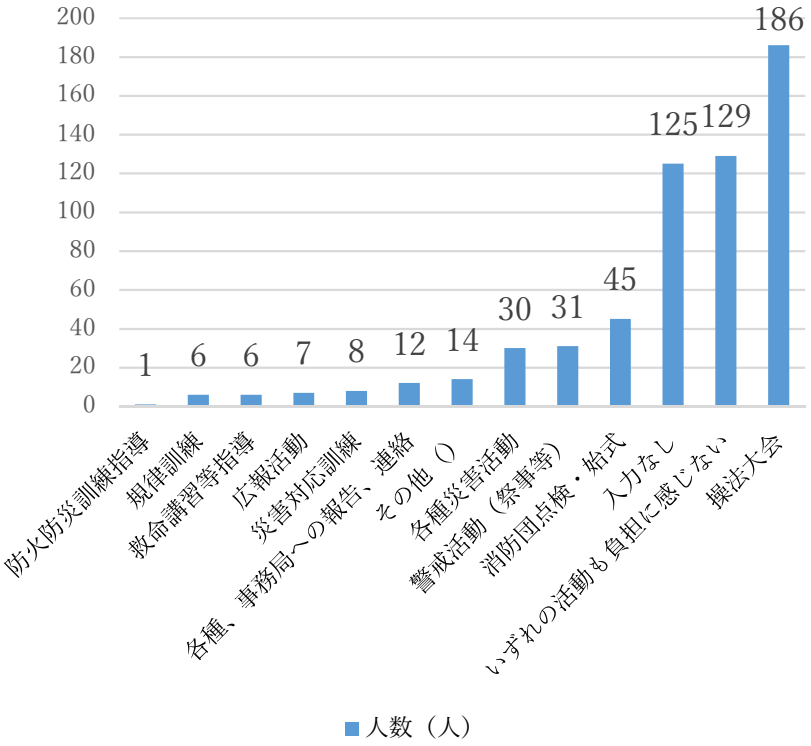
	人数（人）
あまり感じない	43
どちらともいえない	69
まったく感じない	20
やや感じる	12
非常に感じる	20
記載なし	436
合計	600

	その他（　）内の記載事項
やや感じる	操法大会に向けての訓練の回数の多さ
非常に感じる	人間関係
非常に感じる	充足率向上委員会
非常に感じる	行事における進行のミス、遅さ
非常に感じる	事務局からの連絡が遅い
非常に感じる	このアンケート
やや感じる	活動服や制服などが場所をとること
非常に感じる	事務局への連絡、報告、書類の提出等
非常に感じる	行事における集合時間が早すぎる
あまり感じない	仕事等との兼ね合い
非常に感じる	体調が悪く、活動が難しい
非常に感じる	分団長の補佐
非常に感じる	式典の来賓あいさつ
やや感じる	団員募集活動
あまり感じない	有事の際の活動
非常に感じる	ヘルメットや靴のサイズが合わない
非常に感じる	署員と消防団との連携ができていない
非常に感じる	プライベートでの時間の浪費

※その他の（　）内について記載されている内容を全て記載

Q１－２　以下の消防団活動で最も負担を感じる活動を選択してください。

	人数（人）	割合（%）
防火防災訓練指導	1	0
規律訓練	6	1
救命講習等指導	6	1
広報活動	7	1
災害対応訓練	8	1
各種、事務局への報告、連絡	12	2
その他（）	14	2
各種災害活動	30	5
警戒活動（祭事等）	31	5
消防団点検・始式	45	8
記載なし	125	21
いずれの活動も負担に感じない	129	22
操法大会	186	31
合計	600	100



Q1－３　Q1－２で回答した活動における、負担を具体的に記載してください。

その他

・行事における来賓あいさつが長い。議員について途中退席や秘書の代理出席などの方は紹介しなくてよい。

・どの活動も集合時間が早すぎるのが負担と感じる。

各種、事務局への報告、連絡

・出場通知書等、紙ベースの提出が主流であり負担である。IT 化を行いペーパーレス化してほしい。

各種災害活動

・早朝、深夜など仕事に支障が伴う。

・年齢を重ねるごとに体力的な負担があり、他の団員と同じように動けないこと。

・就寝時の火災対応

・人命にかかわる危険な仕事であり、責任を感じるから。

・仕事のため、災害があっても出場できないこと。

・仕事との調整が難しい。
・仕事が優先となるため、出動できる人が限られてしまい負担となっている。
・仕事等で災害があっても出場できないことが申し訳なく負担に感じる。
・企業団員で活動着を会社においているため、仕事中に抜けて活動できないこと。
・災害出場における連絡が遅い。

規律訓練

・集団行動が苦手

救命講習等指導

・救急勉強会について、団員同士で教えあうことに疑問を感じる。また、開始時間が遅い。

警戒活動（祭事等）

・祭事、神輿等は時間も長く、炎天下での長時間の警戒は時間的にも体力的にも負担
・酔っ払いへの対応
・交通整理を含む警戒活動は危険が伴うので負担

災害対応訓練

・仕事であまり参加できないこと。
・反復した訓練がないこと。
・体力的な負担

消防団点検・始式

・大半の団員が行進のみで終了し、指定された数名のみで訓練成果を披露する活動に大きな意義を感じない。また、来賓の挨拶が長く、長時間立ったままの状態に強い負担を感じる。
・消防団始式については、長時間にわたり、表彰や来賓あいさつがあり、負担に感じている。来賓者からも、出初式のようなセレモニーだと思ったのに、特に見どころもないとの声が聞こえてくる。
・消防団始式において、朝早くから集合し、練習が間延びして時間的、体力的にも負担に感じる。来賓あいさつについても代表の方を絞っても良いのではないかと思う。表彰については代表受賞を更にまとめて行ったら良いのではないかと思う。消防団点検も同様
・消防団始式を誰のために、何のために行っているのか、目的が不明
・リハーサルを含め時間が長い。

操法大会

・訓練回数及び日数が多い、時間が長い。
・分団員の不足による選手の固定及びそれに伴う負担
・競技性における指導のあり方、訓練日数の増加
・分団員不足のため選手をしたくなくても我慢して実施している団員がいる。
・市民消火隊の訓練があっても操法訓練を優先にしている。

・指導者の不足
・訓練場所が道路であるため安全管理が負担
・選手になってしまうと、私用及び仕事等により訓練を休みたくても、信頼関係のため休めなくなり、私用及び仕事等を調整することとなってしまう。
・体力的な負担
・大会として行われているため、タイムや規律で点数を付けられる事が負担となっている。
・実戦的ではない。
・災害対応訓練を全く行わず、全て操法の訓練に当てること。
・順位がつくと気軽に出られないため、発表会のほうが良い。
・大会の閉会式で来客が帰るまで立ちっぱなしとなる。
・休日及び夜間訓練が負担
・本業がある中、多くの時間を割かないといけない。（平日夜、休日）→休息する暇が取れない。練習の手伝いに来る団員が年々減っており、練習の運営がままならない。→特定の団員に負荷が大きくなっている。
・実災害に効果があるか疑問
・毎年実施されることが負担
・競技ではなく発表会としてほしい。

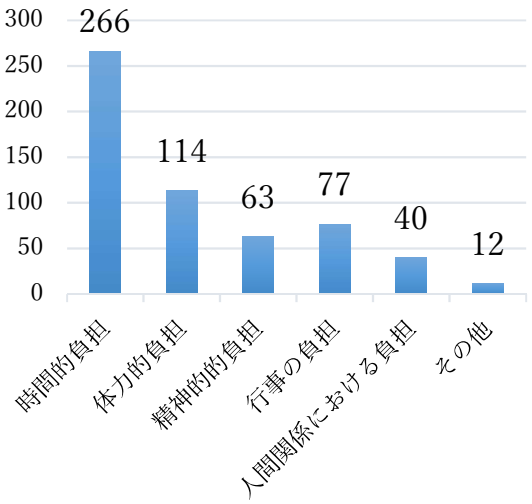
防火防災訓練指導

・新人なので覚えること及び難しいことが多数ある。

Ｑ１－４　負担の主な理由について選択してください。（複数選択可）

	人数（人）
時間的負担	266
体力的負担	114
精神的的負担	63
行事の負担	77
人間関係における負担	40
その他	12

※複数選択可のため割合の表示はなし

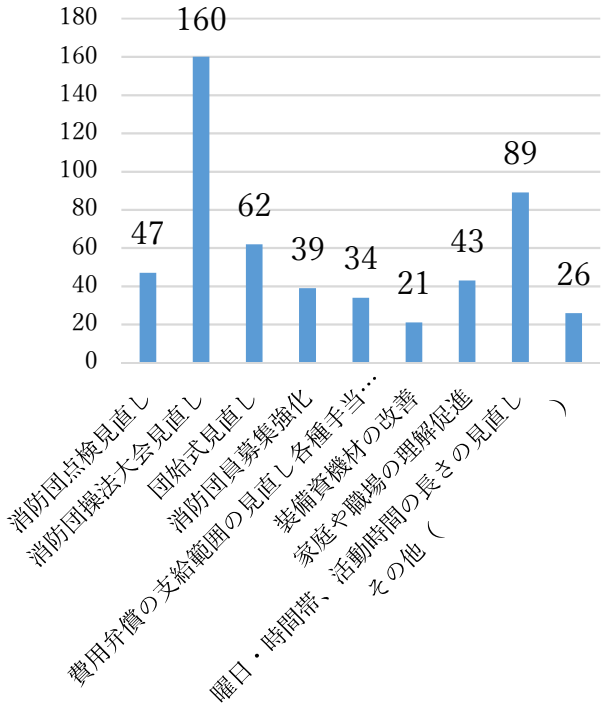


その他記載事項
・消防団のジェンダーギャップ、縦社会 ・訓練場所の負担

Q１－５　負担についての改善策があれば記載してください。（複数選択可）

	人数（人）
消防団点検見直し	47
消防団操法大会見直し	160
団始式見直し	62
消防団員募集強化	39
費用弁償の支給範囲の見直し各種手当の支給	34
装備資機材の改善	21
家庭や職場の理解促進	43
曜日・時間帯、活動時間の長さの見直し	89
その他（　　）	26

※複数選択可のため割合の表示はなし



その他記載事項
・団員募集方法の改善
・消防署による定期な操法の指導及び教養の実施
・個人での体力、技術等の向上
・年間で出来るだけ予定を決められる様にしてほしい。
・訓練場所等での休憩場所の確保、休憩のできる雰囲気づくり、訓練場所の改善
・事務局への報告
・人間関係の向上

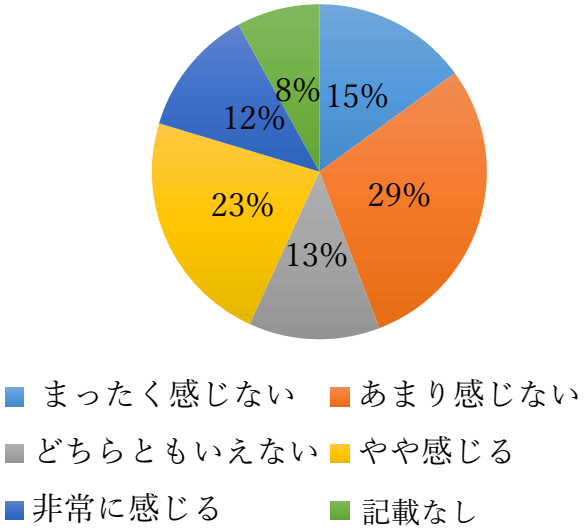
Q１－６　　Q１－５改善策について具体的に記載してください。

・操法大会における訓練日数、時間の削減
・操法大会における競技性の廃止（順位の廃止）。発表会形式とすることで、選手の固定がなくなり、多くの団員の技術力の向上に繋げる。また、他の分団と推奨検討事項について意見交換し、お互いに技術を高められるような形とする。
・団員募集方法の改善
・操法大会のための訓練は、訓練場所の確保、準備も各分団毎に対応している。少人数の分団は合同のチームで訓練を実施し参加することで、人数、訓練場所の改善が図れること、また、各分団の連携の向上に繋がる。
・操法大会で選手を分団ごとではなく、全分団から決めると良いのではないか。
・操法大会について、「魅せる」大会から「学べる」大会として、内容を「現場で役立つスキルと実戦化」へ変更して欲しい。大会終了後に詳細な評価についてフィードバックシートを配布し各分団の防災力向上に UP するアドバイスがあると良い。
・費用弁償の改善。費用弁償を回数から時間に応じた支給金額への変更
・災害時訓練している時に、動くのがきついからと言う理由では抜けづらい。それぞれの体力にあった訓練を計画する。
・団員を増やすことで、個々の精神的・肉体的負担を減らす。
・各式典について時間短縮及び効率化
・合同点検に関しては特に時間・体力的負担が大きいため、見直す。
・消防団の存在意義を考慮した各種行事の見直し
・事務局への報告を含む消防団活動における事務処理について可能な限りデジタル化して欲しい。専用アプリの開発
・団員がサラリーマン化しており、会社での拘束時間がある為、参加が難しいことを考慮する。
・操法大会に代わる新たなイベント（地域住民参加型）の開催。操法大会の見学に訪れる人の多くは消防団関係者であり大会が充足率の向上に寄与しているとは考え難い。地域住民参加型のイベント（放水・救護体験等）に置き換え参加を促すことで、消防団活動を知ってもらい充足率向上が期待できるのではないか。
・消防操法を走らずに行う操法へ。誰でもいつでも出来る様な消火法。規律重視よりも実戦重視
・消防団活動との両立が難しくなっています。（活動時間の制約が生じ皆が集合できる曜日が決まってくるため、揃うのが厳しい）
・操法大会をやめ実戦的な訓練を実施する。
・表彰制度の見直し
・操法大会について、毎年、操法大会を行うのではなく東京都大会に出場する順番の年に各消防団の操法大会を行う。

・操法大会は希望する分団のみの参加とし、実戦的な訓練を実施したほうが良い。
・合同点検は前日及び当日も朝から準備を行うが点検として発表する要員はごく一部。あとは、見学することも自由ではなく成長に繋がらない。団員が広く成長できる点検とした方が良い。
・活動服の冬服は不要
・選手中心の操法大会の見直し
・待ち時間ゼロ設計。常に誰かが動いている状態にする（見るだけの時間をなくす）。
・目的に明確化（何のためかわからないと長く感じる）早く終わる仕組みを入れる（どうせ長い）がやる気を削る。指導側の意識改革→短時間で成果を出すのか指導力（長時間指導力不足）→長時間は注意力が下がる。
・事務局の事務能力の向上
・操法大会を毎年やらない。３年に１回にする。
・形式より実務を重視した活動、訓練がやる気につながると思う。
・主婦が活動できる時間での、行事訓練の実施
・消防団始式の内容は表彰式である。団員の技術知識の向上には繋がらない。団員への負担、効果を考えると内容を見直す必要がある。
・活動、行事が多すぎるので削減。行事の参加・不参加の自由度を広げる。
・家庭の事情（子育て等）で活動に参加するのが難しい団員への対策
・個人装備品を削減する。被服の管理が大変であり、活動服と防火服のみなど簡素化してもらいたい。
・個々の生活基盤等を大事にしたうえで、可能な範囲で活動に参加するというスタンスを、分団内で理解をしてもらう。細く長く続けられるような活動
・行事におけるリハーサルをなくす。
・実戦的な操法にする。防火服を身につけ、時間よりも安全を考慮した動きや、指揮系統や連携を考え行う。訓練実施後は講評を受け、結果をフィードバックしてゆく。各分団ごとでなく、複数分団が協力して行っても良い。
・警戒における交通整理を担当しない。
・操法大会都大会の廃止

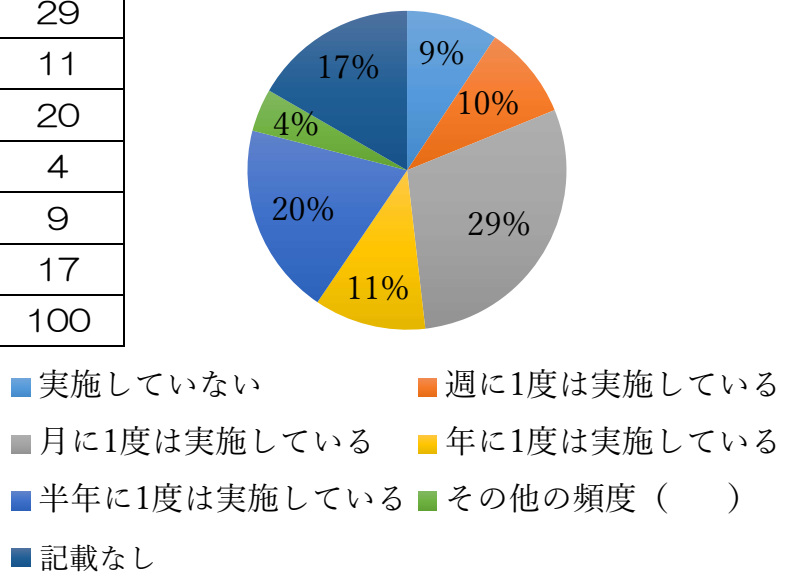
Q１－７　実戦的な訓練が十分に実施されていると感じますか。

	人数（人）	割合（%）
まったく感じない	90	15
あまり感じない	175	29
どちらともいえない	76	13
やや感じる	137	23
非常に感じる	74	12
記載なし	48	8
合計	600	100



Q１－８　実戦的な訓練の実施状況を回答してください。

	人数（人）	割合（%）
週に１度は実施している	57	10
月に１度は実施している	176	29
年に１度は実施している	68	11
半年に１度は実施している	117	20
その他の頻度（　　）	26	4
実施していない	56	9
記載なし	100	17
合計	600	100



Ｑ１－９　Ｑ１－８で実施していない理由を記載してください。

・訓練場所、時間がない。
・訓練指導者不足。署の立案で行う訓練が実戦的だが、団だけは場所、時間、人数に問題があってできない。
・分団長の指揮、方針、団の考え方や取り組み姿勢により各分団によってかなりの差が有ると感じている。自分の所属分団は、練習不足と感じている。
・消防団員の不足
・訓練指導者不足。分団内で提案しても、実践しようとする意欲がみられない。
・実戦の定義がされていないから。
・騒音問題やホース延長ができるような広い訓練場所がない。
・地域コミュニティ色が強いため、実戦的訓練より行事が優先されることが多いと思う。まずは、できる範囲で小規模な実戦的訓練を取り入れていく。
・ポンプ操法以外の訓練をほとんど行っていない。

Ｑ１－１０　Ｑ１－９で回答した理由の改善策があれば記載してください。

・訓練指導者の育成
・単独実施でなく複数分団合同で実施する。
・団員募集の強化
・署隊と連携した訓練
・消防団のみでの消火栓の活用
・分団ごとに、月ごとの訓練計画を作り、訓練内容の報告を義務化する。
・実戦の定義、想定がわかるような訓練の実施
・単独実施でなく複数分団合同で実施する。
・企業団員の役割における明確化、具体化
・訓練指導者養成研修等の実施
・署員による訓練指導者の育成
・行事・イベントの軽減

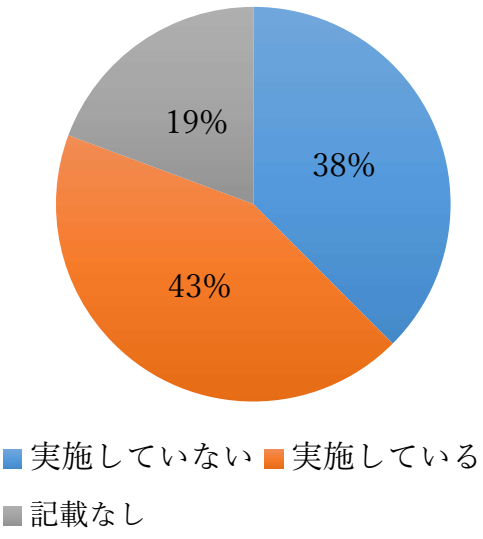
Q１－１１　実戦的な訓練で実施したいことがあれば記載してください。

・火災対応訓練
・無線運用訓練
・水災時におけるボートを使った救助訓練、水防工法以外の訓練
・救助資機材取り扱い訓練
・団本部運営訓練
・救助資機材を活用した実戦的な訓練
・定例訓練と称して月１度は、救命講習、救助資機材の取り扱いなど訓練実施しているが、自分たちだけで実施しているため、正解が分からない。
・消火栓を活用した火災対応訓練
・指揮訓練
・他分団との放水訓練
・資機材のメンテナンス教養
・各種訓練の反復
・ブラインドでの火災対応訓練

２　消防団自らが企画･実施する主体的な訓練の推進と充実について

Q２－１　消防団自らが企画・実施する訓練の実施状況を回答してください。

	人数（人）	割合（%）
実施していない	225	38
実施している	259	43
記載なし	116	19
合計	600	100



Q２－２　実施している訓練内容を記載してください。

・毎月、救急技術委員会を開催し、応急手当指導員や普及員、将来的に取得したい団員の技術向上を図っている。
・月に１度、救急訓練を実施。４か月に１度火災対応訓練を実施
・月に最低２回は火災、救助、救急、救命、規律の各種訓練を実施している。
・消防署での火災対応訓練
・無線運用訓練
・可搬ポンプ取扱い訓練
・水利調査
・資機材取扱い訓練等
・月に１度、分団本部でロープワークや AED 取り扱い、規律訓練などを行っている。
・各工具器等を使用し、使用方法及び器具の点検等の実施。
・ポンプ、ストライカー、チェーンソー等の資機材の取り扱い訓練
・月に１度、規律訓練の実施
・月に１度、教育訓練を実施
・月に１度、基礎訓練実施
・月に１度の分団教育訓練で各種訓練
・ポンプ操法等
・町会会館等を利用して初期消火、応急救護等
・定例訓練、市民消火隊との合同訓練
・月に１度、分団訓練を実施。訓練担当団員を中心に火災対応訓練、無線機の効果的な使用方法、東京消防庁公式アプリの有効など使用方法など様々な訓練を実施している。
・月に１度、分団訓練で火災・地震・救急活動の訓練を実施している。
・月に１度、分団訓練、更にグループごとに部会（計月２回）。実技訓練、座学、勉強会、ディスカッションによる火災対応、地震、救助、ロープワークなど
チェーンソー取り扱い訓練、水利確保要領、無線運用訓練、救急訓練
・月に１回、出張所にて応急救護訓練を実施
・週に１度、各種訓練を実施している。
・月に１度、署の防災教室で、救急勉強会として指導要綱の作成や実技訓練を実施している。また、不定期で規律訓練や結索訓練、資機材取り扱い訓練などを実施している。

Q２－３　実施していない理由があれば記載してください。

・訓練場所がないこと。
・事務局が企画するのが通例となっているため。
・参加者が毎日同じ。年齢、体力にも問題あり。ポンプ水出しはきつい。
・実戦経験がないため。
・以前体験入団会の企画書を作成したが、実施場所がなく実施できなかった。
・昨年、新入団でスキル向上のための相談、依頼を行ったが実現への道のりは厳しくあきらめた。先輩団員それぞれの考えもあり難しい。分団一丸となって新入団員を育成する意識が低い。入団年数の浅い団員の意見は発信しづらいため。
・分団内で意欲がない、向上心のある団員が少ない。
・各団員の予定が合わないため。仕事が多忙なため。
・人員不足により人員が確保できない。
・知識がない。
・指導者が不足しているため。
・仕事が多忙なため。
・町会等からの出場要請も多く、現状の活動で手一杯であるため。
・分団内で訓練の要望をしても実施されない。
・そのような企画がなく、話も上がってこない。
・団員の自主的な呼びかけでないため。
・定期的な点検、団本部からの企画が中心

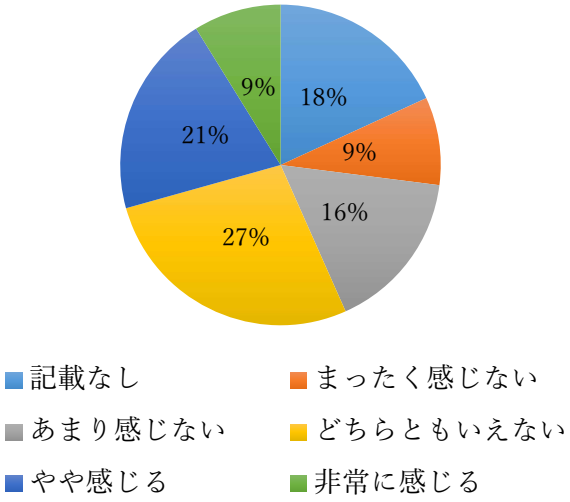
Q２－４　Q２－３で回答した理由の改善策があれば記載してください。

・各種災害に応じた訓練モデル等を作成してもらいたい。
・東京都管理の建物（学校等）を消防関係の訓練等で使用させてもらいたい時の許可取りがもっとスムーズになるよう連携して欲しい。（過去に半年必要と言われた。）
・訓練指導者の育成
・分団長に限らず、分団員が意見できるような会議体があると良い。
・訓練を行う前の事前講座が必要だと思う。理解して実施する訓練と理解しないで実施する訓練では効果が違う。
・他分団の訓練見学や自己分団を超えた訓練の機会があれば良い。
・分団内でノルマを作る。
・訓練モデルを参考にする勉強会を実施する。
・企業型消防団への具体的な役割の指示があると動きやすい。
・ｅラーニングを活用する。
・年間訓練スケジュール（分団固有）の作成

Q２－５　各種訓練の実施にあたり環境が悪いと感じますか。

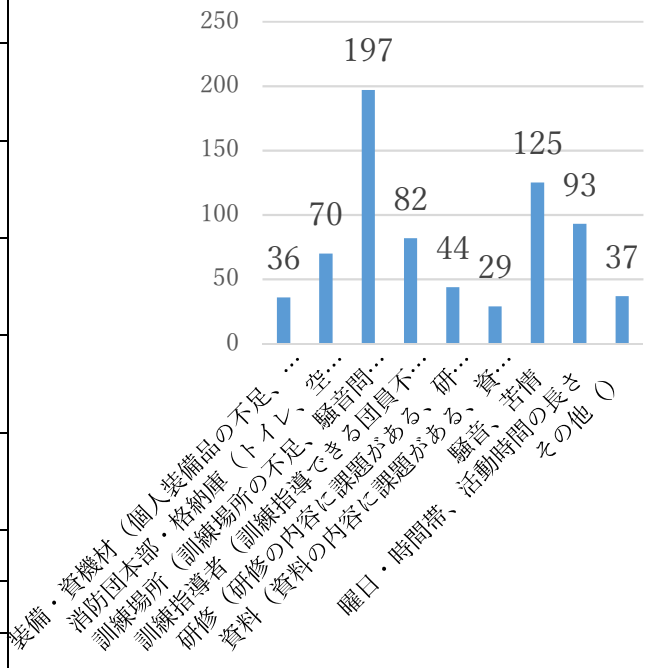
※　「環境」とは各種消防団活動の実施にあたり、「活動のし易さ、難しさ」を目安としてください。

	人数（人）	割合（%）
まったく感じない	53	9
あまり感じない	98	16
どちらともいえない	164	27
やや感じる	123	21
非常に感じる	53	9
記載なし	109	18
合計	600	100



Q２－６　各種訓練の実施における環境が悪い理由を選択してください。（複数選択可）

	人数（人）
装備・資機材（個人装備品の不足、資機材の不足等）	36
消防団本部・格納庫（トイレ、空調、広さ等）	70
訓練場所（訓練場所の不足、騒音問題、トイレ等）	197
訓練指導者（訓練指導できる団員不足等）	82
研修（研修の内容に課題がある、研修の回数不足等）	44
資料（資料の内容に課題がある、資料の不足等）	29
騒音、苦情	125
曜日・時間帯、活動時間の長さ	93
その他（）	37



※複数選択可のため割合の表示はなし。

その他記載事項
・操法大会を重要視している者との温度差・訓練場所の確保に毎年苦労している。 ・消火栓の使用手続き・分団員の人数不足

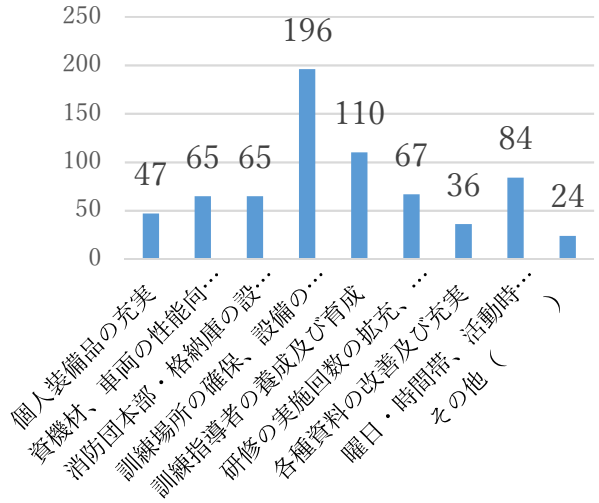
Q２－７　各種訓練の実施における環境が悪い理由を具体的に記載してください。

・訓練における騒音の気づかい、苦情の対応、訓練の長さ
・近隣住民からの苦情の不安がある。
・訓練場所がない。訓練回数が多い。
・操法大会の訓練においてホースを延長できる長さが足りず不十分。
・指導者の指導が経験によるものが大きく、倫理的でないため伝わりにくい。
・共通の資料を基に行っていない。分団毎に解釈が異なっていたりもする。
・操法訓練場所について、本年度からマンションに囲まれた都の施設で開始した。来年も使用できるかが不明な状態
・操法訓練時は路上のため危険が伴う。
・住民からの苦情と人通りが多い地区なので訓練中断等が多々ある。
・近隣からの苦情、団員が集合できる時間を踏まえると、活動できる時間帯が短い。
・公道でやっているので、車やオートバイ、自転車、歩行車などがでてきて訓練が難しい時もある。
近隣住民からの苦情で委縮してしまう。
・分団本部の敷地内ではホースの展張もままならず、本部前路上での訓練は通行量が多く集中できない。
・夜の訓練で苦情がきてしまうため、声のボリュームに気を付けなければいけない。
・訓練場所が道路の為、交通整理の人員が多数必要。住民に迷惑がかかる。
・路上は生活のために使っている方が多く、訓練に使うべきではないと思う。
・操法大会の基準が、全国、都、各地区でバラバラ。まとめて欲しい。
・会議室が狭い。
・人員不足で、警戒する団員が足りず通行人が入ってくる。
・操法大会の訓練で、近隣住民からの苦情で訓練場所がなくなり、ほかの分団と合同で訓練をしている。
・操法大会訓練の活動が人員不足で夜の訓練回数が多く、有休などを使い参加している。準備も含め毎回同じメンバーで負担が大きい。
・操法大会の資料が古い。実施している内容と変更があったり、足りない部分がある。
・操法大会で活用している水槽から消火栓までの距離が遠いうえ、車道や歩道をまたいでいるため、充水が大変
・昼間の公園での訓練で警備のため選手以外は、訓練をじっくり見れない、学習できない。
・分団本部が狭いため、全団員が集合した場合は外に待機しなくてはならない。

・簡単に訓練場所を借りられる場所がない。操法大会の訓練に時間を取られすぎている。
・訓練場所のトイレがない。他分団と合同で訓練している。
・操法大会の訓練場所にトイレがないので、訓練期間中だけでも仮設トイレを設置してほしい。
・周囲の環境を気にしないで活動できる場所が少ない。訓練場所が遠く、車やバイクがないと移動が難しい。
・訓練実施前の地域住民への周知にSNSや地域アプリなどを使用するのが良いと思います。住民に「協力してもらっている空気」を作る。迷惑をかけられてると感じさせない工夫が必要
・事務局が苦情に過剰反応している。苦情を受け入れるのでなく理解を求める方向で対応して欲しい。訓練や活動は公益性が高く、住民に理解を求めて欲しい。
・操法訓練場所が傾斜地である。
・研修機会がもう少し欲しい。
・ｅラーニングではいまいち記憶に残らない。

Q２－８　各種訓練の実施における活動環境を良くするための改善策を選択してください。（複数選択可）

	人数（人）
個人装備品の充実	47
資機材、車両の性能向上、充実	65
消防団本部・格納庫の設備の充実	65
訓練場所の確保、設備の充実	196
訓練指導者の養成及び育成	110
研修の実施回数の拡充、内容の見直し	67
各種資料の改善及び充実	36
曜日・時間帯、活動時間の長さ	84
その他（　　）	24



※複数選択可のため割合の表示はなし。

その他記載事項
・消防団　個々のやる気　・時間が合わず訓練に参加できない。 ・職員の事前準備　・署の対応　・団員募集、広報活動　・継続的、定期的な訓練 ・上級救命・普及員資格者の養成

Q２－９　Q２－８で回答した改善策を具体的に記載してください。

・可搬ポンプのエンジンの消音化
・自由に使用できる訓練場所、公道以外の訓練場所
・署による訓練場所の確保の推進
・夜間に訓練をしているので照明の設備（負担の軽減の為、容易に設置できるもの）を充実
・操法大会で年度ごとに変更があった点の周知方法の改善（口頭伝達ではなく視覚可…タブレットで確認できるなど）
・消防団専用の訓練場の設置
・応急救護訓練の際の訓練用の人形と AED を分団ごとに２つ配布
・消防署敷地内で訓練を実施
・広報等で看板、宣伝文句が古いため、改善する。
・団員募集強化による団員数の確保
・軽車両では資機材が多く積めないため、改善してほしい。
・費用弁償の一律支払の見直し、夜警等は下げて火災等の出勤を高くする。
・消防学校だけでなく各署でも、研修教養等を実施してほしい。
・行事を準備する職員が内容をしっかりと理解把握し、対応してほしい。
・東京都管理の建物の利用申請を簡素化
・資機材置き場の整理
・継続的な訓練の実施
・分団本部が狭く全員集合した場合、入りきらないため改善してほしい。
・分団単位では指導者の能力（専門性）の限度がある。署、本団で指導体制を構築すべきだと思います。
・早急に分団本部を改善してほしい。
・指導者養成のプログラム確立
・諸々の予算の見直し
・消防団専用の訓練場の確保（騒音及び安全確保ができる場所）